花の都しずおか

クルクマ

静岡県は全国有数の花の産地。多彩で高品質な花が生産され、全国1位を誇るガーベラのほか、バラ、切枝、パンジーなど全国上位を占めている品目も多い。その「場の力」を生かして、ふじのくに「花の都しずおか」の実現を目指している静岡県の花づくりを紹介する。

ピンク、ホワイト、ライムグリーンなど、カラフルな色合いと可憐なシルエットが特徴のクルクマは、タイ原産のショウガ科の多年草だ。古くは仏花として知られていたが、近年は優しい色と清楚なイメージからブライダルブーケやフラワーアレンジメントにも多用され、全国的に需要も高まっている。そんな状況の中で昨年、静岡県はクルクマの出荷量と出荷額において日本一の座に輝いた。

県内でクルクマを栽培しているのは、浜松市と掛川市。浜松では約23年前から行なわれている。現在浜松市の「クルクマ研究会」で会長を務める鈴木秀平さんが着手したのは約10年前。冬のスイートピーに対して、夏の花として栽培を開始したが当初は難航したという。「土づくり、堆肥づくり、防風対策などで随分苦労しました。でも、JAとぴあ浜松の営農アドバイザーと二人三脚で試行錯誤を繰り返し、ようやく納得できる花が咲くようになりました」と鈴木さんは振り返る。現在、同会では39名の生産者が15種類のクルクマを育てている。

クルクマは品種によって色、形、草丈が大きく異なるため、用途は多岐におよび、使い手のセンスによって多彩な表情を見せる。切り花として日持ちが良いことも魅力の1つだ。ただし、知名度は高くない。「でも、だからこそ期待は大きい。将来はチューリップと同じくらいポピュラーな花に育てていきたい」と鈴木さん。日本一になった今も同会の挑戦は続く。

お問い合わせ／JAとぴあ浜松 花き営農センター
電話：053-439-8100

「ホワイト」という品種。花に見えるのは苞（ほう）の部分で、下に見える紫色の部分が花。クルクマは苞を切り花として楽しむ。

淡いピンク色をした「シャローム」という品種。草丈はクルクマの中で最大の80cm～50cmにもなる。

クルクマの手入れをする鈴木さん。温室の中は40℃近くに維持されているため作業も容易ではない。

クルクマ研究会の会長・鈴木秀平さん（左）とJAとぴあ浜松の営農アドバイザー・大石佳世さん。

花の都スポット

遊休地のひまわり

浜松市　見ごろ 7月下旬～8月上旬　web http://2525pj.tv

「ひまわりの花を通じて、街を、人を元気にしたい」という願いから始まった「ひまわり2525（にこにこ）プロジェクト」。浜名湖に近い遊休地に約30万本のひまわりが咲き誇る。老若男女の市民がボランティアとして参加し、2006年から種まきや「浜名湖ひまわり祭」などを開催。今では浜松の夏を告げる風物詩になっている。

住所：浜松市西区庄和町137-3（サークルK付近）　電話：080-9171-3873（代表の塩崎明子さん）

ふじのくにTOPICS
JR沼津駅北口に、会議・展示・宿泊の3つの機能を合わせ持つ総合コンベンション施設「ふじのくに千本松フォーラム（愛称：プラサ ヴェルデ）」が誕生しました。会議・イベント等にご利用ください。問合せ：プラサ ヴェルデ055-920-4100